

保護者の皆様

石狩市立樽川中学校長 山田 浩人

「平成30年度全国学力・学習状況調査」結果の概要

4月17日（火）に、3年生を対象に実施された全国学力・学習状況調査の本校の結果について、分析・考察を行いましたのでご報告いたします。

本校では、実施後速やかに自校で採点し、分析・考察を踏まえ学習指導及び授業改善等に生かしてまいりましたが、文部科学省より送付された結果について概要をお知らせいたしますので、ご家庭でもお子さんの指導等の参考にさせていただければと思います。

なお、本調査の結果につきましては本校の学力のすべてを表すものではないことを申し添えます。

1. 国語A:主として『知識』に関する調査

◎国語Aの正答率は、全道・全国平均とほぼ同様（下位）の状況であり、32問中10問が全国を上回る結果でした。

○各領域の傾向

・【話すこと・聞くこと】…この領域については、全道・全国平均よりやや低い状況でした。

話し合いの場面の文を読み、「話し合いの話題や方向を捉えているか」をみる問題は、全国より相当低く、学校では、「話し合い活動に主体的に参加するために、何についてどんな目的で話し合っているのかを常に意識して話したり聞いたりする」よう指導してまいります。

・【書くこと】…この領域については、全道・全国平均と同様でした。

・【読むこと】【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】…この領域については、全道・全国平均とほぼ同様（下位）でした。

漢字の読みについては、全国を上回る結果もありましたが、書きについては、「舞台の臺が上がる」「先制点を許す」の正答率が相当低い結果となりました。学校では、日常の学習や生活の中でも、必要に応じて辞書などを活用して漢字の意味や用法を確認し、漢字を正しく読んだり書いたりする態度や習慣を養ってまいります。

2. 国語B:主として基礎的な知識・技能の『活用』に関する調査

◎国語Bの正答率は、全道・全国平均より低い状況でした。

○各領域の傾向

・【書くこと】【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】…については、全国より相当低い結果となりました。

上記2領域と【読むこと】についての複合である「文学的な文章を読み、相手に的確に伝わるように、あらすじを捉えて指定された文字数で書くことができるか」を問う問題に課題がみられました。学校では、今後とも朝読書をはじめとした読書活動の充実を図るとともに、例えば、自分の選んだ作品のあらすじをまとめ、互いに伝え合い、内容を適切に表現することができるかを確認し合うなどの学習活動などを展開してまいります。

3. 数学A:主として『知識』に関する調査

◎数学Aの正答率は、全道平均より低く、全国平均より相当低い状況でした。

○各領域の傾向

・【関数】【資料の活用】…については、全道・全国平均より相当低い状況でした。

具体的には、「文字を用いた方程式や一次関数を解く場面において、等式の性質の用い方について

理解しているか、一次関数の意味を理解しているか」を問う問題に対し課題がみられました。学校では、目的に応じて等式を変形する活動を取り入れ、その際に、具体的な日常生活の場面で目的に応じて式を変形することの意味や変形して得られた式を具体的な場面で利用することのよさを実感できるような指導を行ってまいります。関数においても同様に、式の変形から関数と判断できる場面の設定や数量の関係を言葉の式や線分図、具体的な数値で表をつくったりする活動を取り入れた指導を行ってまいります。

正答率の低い問題等の共通点としては、数学用語の定着や質問の意味を十分理解できていないことが考えられます。学校では、授業の中で既習事項を振り返る場面を意図的に作りだし、復習に取り組んだり長期休業中の課題に当該学年以前の学習内容を取り入れて復習を行ったりしていきます。

4. 数学B:主として基礎的な知識・技能の『活用』に関する調査

◎数学Bの正答率は、全道・全国平均より相当低い結果でした。

○各領域の傾向

- ・【資料の活用】…について、全道・全国平均より相当低い結果でした。

調査問題は、「アンケートの数値結果をまとめた表から必要な情報を選択し、的確に処理できるか」「くじ引きという不確定な事象を含む問題場面について、くじ引き結果の起こりやすさの傾向を捉えることができるか」「くじ引き結果の起こりやすさを、その理由を含め数学的な表現を用いて説明することができるか」の理解が不十分でした。【資料の活用】は数学Aでも課題が明らかになっており、学校では、日常生活の場面を想定しながら、「数学用語を正しく読み取り状況を把握する。問題解決の方法を考え実行し、その取り組みを評価・改善する。そこから数学を利用することの意義や数学のよさを実感できるようにする。」ことを指導してまいります。

5. 理科に関する調査

◎理科の主として「知識」に関する問題の正答率は、全道とほぼ同様（下位）、全国平均と同様の結果でした。

◎理科の主として「活用」に関する問題の正答率は、全道・全国平均とほぼ同様(下位)でした。

○各領域の傾向

- ・【物理的領域】【生物的領域】【地学的領域】…について、多くの設問で全道・全国平均を上回る結果でした。

自然現象についての知識・理解や観察・実験の技能が定着している状況にあります。

- ・【化学的領域】…について、全道・全国平均より低い結果でした。

調査問題からは、【化学的領域】で、実験の観察や考察結果を踏まえ、新たな課題の発見や必要な条件を指摘し記述する力の定着が不十分でした。

学校では、問題解決の知識・技能を活用し、自然の事物・現象の原因を指摘できるように、日常生活で目にする事象を多面的な視点に立って考えられるように指導してまいります。

また、話し合い活動などの充実を図り、グループで考察を検討する際には、「課題に正対しているか」「結果の予想と観察・実験の結果とを比較して妥当であるか」などの視点を大切にして指導してまいります。

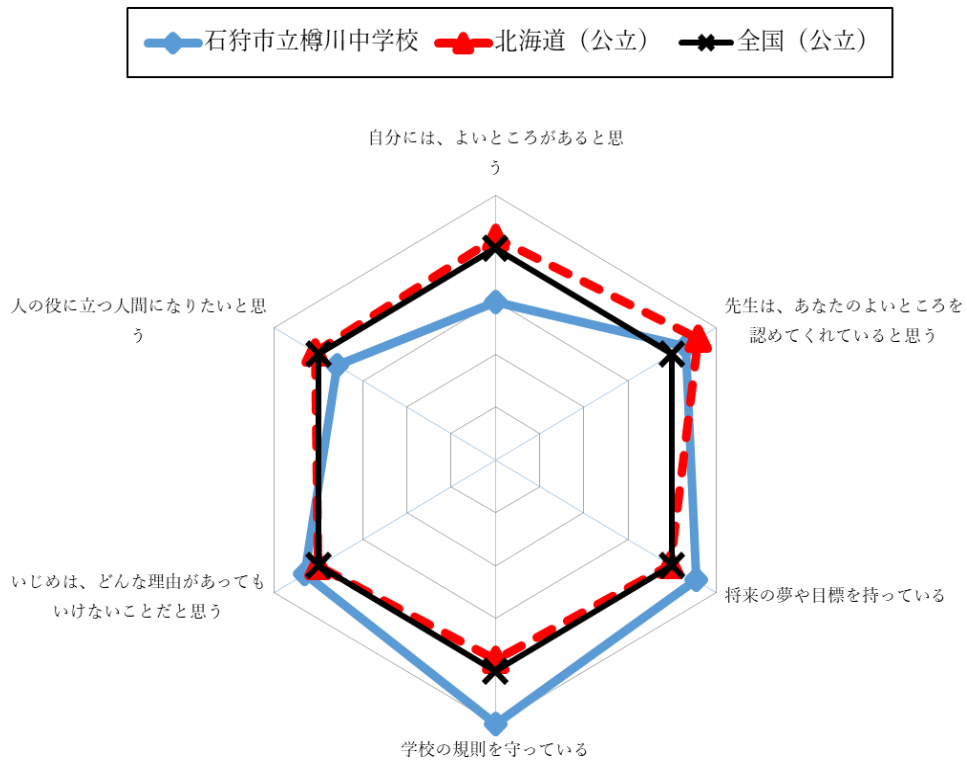
今回の調査では、国語A・B、数学A、理科において無解答が少なく、本校生徒は最後まで調査問題に粘り強く取り組もうとする姿勢がみられました。

6. 生徒質問紙による自尊意識、規範意識等、生活習慣に関する調査

○本校生徒の自尊意識調査では次ページのチャートで示すとおりです。

- ・規範意識の遵守や将来の夢や目標をもっている生徒の割合が高くなっています。
- ・「いじめはどんなことがあってもいけないことだと思う」との意識が高いです。
- ・「自分にはよいところがある」「人の役に立つ人間になりたいと思う」割合が低い状況にあります。

※下のチャート図は全国を100とした指数で北海道と樽川中の状況を示しています。

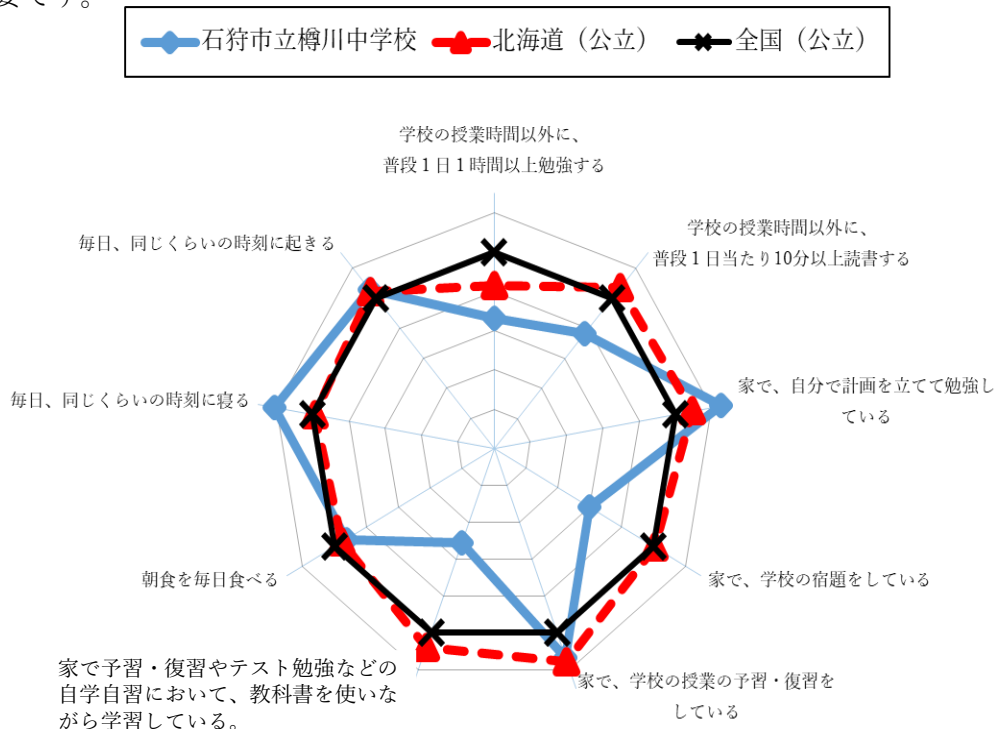


学校では、本校生徒のよさである規範意識の高さや夢や目標の実現に向け努力する姿勢を大切にしながら引き続き教科の授業をはじめ、学校行事や各種体験活動等をとおして、自分のよさを感じる自己肯定感や自己有用感の向上に努めます。

また、生徒会の「思いやり宣言」の定着など、いじめ未然防止に取り組みます。

○本校生徒の生活習慣調査結果は下のチャートでご確認ください。

- ・就寝・起床などの生活習慣には一定のリズムが認められます。
- ・チャートからは「家庭での学習時間」や「宿題の取組」「読書の取組」が全道・全国平均と比較すると改善が必要です。



家庭での学習時間の調査では、平日、休日ともに全道・全国と比較して大幅に学習時間が短いとの結果が出ています。家庭での学習は学力の定着においても重要であることから、学力向上の取り組みとして本校の重点と考えております。睡眠や学校生活以外の活動時間は限られています。それらを有効に活用する意識が大切になります。

ご家庭へのお願い

平成 30 年度の全国学力・学習状況調査の概要は上記のとおりでした。学力向上に向けては学校と家庭が連携した、多様な取組が必要となります。学校では、生徒が自分で考え、他と話し合っよりよい解決方法を見つけ実践する力等を身に付けるよう授業改善に努めてまいります。ご家庭におかれましても、以下の点に留意されますようお願いいたします。

1. 規則正しい一日のサイクルを確立し、望ましい生活習慣を身につけるために

- 毎日決まった時間に就寝、起床し、睡眠時間をしっかりと確保させること。
- 必ず朝食をとってから登校させること。

2. 家庭学習の時間確保を確保するために

- いしかりふれあいDAYの取組（毎月第1・3日曜日はケータイ・スマホ・ゲームを使用せず、家族との時間を過ごす）等を励行する。
- テレビ、ビデオ、DVD等の視聴、インターネット閲覧、ゲームやメールに費やす時間をお子さんと話し合い、「我が家のルール」などの約束を決め、しっかりと守らせる。

※夜9時以降は、携帯電話やスマートフォンは居間に置き、ゲーム、通話、メール等を自室では行わない等の約束をする。

3. 社会の出来事に関心をもたせ、必要な情報を取捨選択する能力を育成するために

- 新聞を読んだりニュース番組を見たりする習慣を身に付けさせること。
- こうした上で、学校と家庭が連携し、子どもたちに、一日2時間以上の家庭学習の習慣をしっかりと身に付けさせたいと考えます。ご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。